西幼だより

令和８年７月２１日
新潟市立西幼稚園

【教育目標】
しなやかに
たくましく

ブログも見てね！

（西幼稚園 HP）

奇跡かな？…きっと奇跡じゃない

園長　　渡邊　舞

桜が舞うころ、プールの足洗い場に、ある物体を見付けました。「これは何だろう」と子どもたちがワクワクしながら見ていたものは…？その物体を保育室に移動させ、タライの中へ。毎日観察するうちに少しずつ形が変化し、みんながよく知っているオタマジャクシになりました。そう、それはカエルの卵だったのです。その後、真っ黒の小さなカエルに成長し、多くのカエルはみんなのもとから巣立っていきました。（実は、このとき、どうも私たちの知っているカエルとは少し違うような気がしていました。こんなに小さくて、こんなに真っ黒かな？と）保育室で育て、最後に残った1匹のカエルは残念ながら死んでしまいました。毎日観察をし、優しさをもってその成長を見守ってきた子どもたちはとてもさみしそうでした。卵から姿を変え、カエルへと成長するその過程を見る中で、愛着がわき、大切に想う存在となり、図鑑で見る生物学的なことではない、とても大切なことを子どもたちは学んだように思います。奇跡的な出会い、そのときはそう思っていました。

最後のカエルとの別れから少したった7月のある日、プールからあがって保育室に戻る途中に「あれ？なんだ？」と年中さんのお友達が言いました。近づいてみると、それはそれは大きなカエル。子どもたち、そして私たちは驚きの声を上げました。子どもたちは真っ先に「あの卵のお母さんなんじゃない？」と言いました。私たちも同じ気持ちでした。担任がカエルをかかえると「クゥ、クゥ」と聴いたことのないかわいい声で鳴くではありませんか。春に卵と出会い、生育過程を見てきたことで、子どもたちはお母さん（かもしれない）このカエルを特別な気持ちで見ているようでした。このタイミングで、お母さん（かもしれない）カエルが子どもたちの前に現れたのは、奇跡？いえ、きっと奇跡ではないと感じました。

西幼稚園の13人のお友達、私のかわいい子どもたちを大切に育ててくれて本当にありがとう。いつもみんなのことを園庭で見ていました。3歳から6歳のお友達が一緒に遊ぶ中、一人一人が自分らしく過ごし、心豊かにお互いを大切な存在と感じる姿、そして命を大切に慈しむ姿に成長を感じます。感動を体いっぱい表現したり、友達への言葉がとてもあたたく、前向きでなんて素敵な13人なんだろうと思っています。これからのますますの成長が楽しみで仕方がありません。2学期からも、みんなのことをずっと見守り、応援しています。クゥ！

お母さん（かもしれない）カエルより

夏休み前に、子どもたちに、そして、私たちにこんなメッセージを伝えに来たような気がしてなりません。異年齢で過ごす毎日の中で、子どもたち一人一人が安心感に包まれ、様々なことに心を動かし、探究し、いきいきと過ごしながら、心豊かに成長しています。保護者の皆様のご支援に包まれて、無事、1学期を終えることができます。ありがとうございました。2学期も保護者の皆様のご理解、ご協力のもと、13人の成長を心を込めて支えてまいります。2学期もどうぞよろしくお願いします。

※お母さん（かもしれない）カエルは「アズマヒキガエル」というカエルでした。